

国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議 取りまとめ参考資料集

- ① 国際バカロレア（IB）について
- ② 我が国における IB 推進の意義と位置づけ
- ③ 文部科学省における主な取組
- ④ IB の認定プロセスについて
- ⑤ IB プログラム導入に係る費用概算
- ⑥ 日本語 DP の導入と高等学校学習指導要領の読替
- ⑦ ディプロマ・プログラム（DP）について
- ⑧ 新学習指導要領との対応関係
- ⑨ 文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム
- ⑩ IB 認定校等数推移
- ⑪ IB 認定校一覧（日本地図）
- ⑫ IB を活用した国内大学入試（2022 年度調査）
- ⑬ IB を活用した大学入学者選抜に関する基礎調査（2022 年度）
- ⑭ IB を活用した大学入学者選抜に関するアンケート調査（2021 年度）
- ⑮ 日本の IB 履修生の成績送付先大学（2015 年-2019 年）
- ⑯ IB 教員資格を取得するためのコースを開設している大学

① 国際バカロレア (IB) について

国際バカロレア (IB) とは

- 国際バカロレア (IB) とは、国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的な教育プログラム。
- **課題論文、批判的思考や幅広い知識の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業**により、**グローバル化に対応した資質を育成**するプログラムで、世界約160の国・地域の5,600校以上で実施されている (2023年3月現在)。
- **高校レベルのディプロマ・プログラム (DP)** では、**国際的に通用する大学入学資格 (IB資格) が取得可能**であり、世界の大学入学者選抜で広く活用されている。
- 主に幼稚園相当から高校相当のプログラムを通じて、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する若者の育成を掲げている。

(参考) 主な教育プログラム

◆ **プライマリー・イヤーズ・プログラム (PYP)**



⇒ 3～12歳を対象とした5年間のプログラム。主に幼稚園、小学校で導入

◆ **ミドル・イヤーズ・プログラム (MYP)**



⇒ 11～16歳を対象とした5年間のプログラム。主に中学校で導入

◆ **ディプロマ・プログラム (DP)**



⇒ 16～19歳を対象とした2年間のプログラム。主に高校で導入

- ✓ 所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、**国際的に認められる大学入学資格 (国際バカロレア資格) が取得可能**。
- ✓ 原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。一部の科目において、日本語での実施 (日本語DP) が可能。

② 我が国におけるIB推進の意義と位置づけ

IB推進の意義

① グローバル人材育成

- ✓ 幅広い知識の**探究スキル**、**課題発見・解決能力**、**コミュニケーション能力**等を育成
- ✓ 国際的な視野を持ち、将来の社会課題に対応するグローバル人材を育成



(参考) IB生の授業風景
@市立札幌開成中等教育学校

② 初等中等教育の質の向上

- ✓ 新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」等、**IBと日本の教育政策との高い親和性**
- ✓ **主体的な学び**を通じた全人教育により、初等中等教育の好事例を形成

③ 国際的通用性

- ✓ IB資格を活用した**国内外への進路の多様化** (DPのスコアを**海外大学の受験に活用可能** (学力試験の免除等) となる等)
- ✓ 国内大学でのIB入試導入により、海外のIB生を呼び込み、国内の**大学の国際化・活性化**

成長戦略2021 令和3年6月18日 閣議決定

【工程表】

国際バカロレアに関し、国内の普及体制（コンソーシアム）を通じ、デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム（日本語DP）の導入促進、大学入試における国際バカロレアの活用促進、国際バカロレア導入に向けた環境整備（教育課程の特例措置、教員の養成・確保等）等を推進

- ・ **国際バカロレア認定校等を2022年度までに200校以上**

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 令和4年6月7日 閣議決定

【フォローアップ】

- ・ 2022年度末までに国際バカロレア認定校等を200校以上にするため、相談対応や広報を行うとともに、**大学での国際バカロレアの活用促進のための方策について検討し、2022年度中に結論を得る。**

③文部科学省における主な取組

日本語DPの導入（2013年～）

国際バカロレア機構との協力の下、DPの一部科目について日本語での授業及び最終試験の受験を可能にすることで、IB教育を実施する学校や教員の負担を軽減。

高等学校学習指導要領との読替（2015年～）

DPと学習指導要領との対応関係を示すことで、IB科目と学習指導要領の教科・科目等の両方を履修することによるIB生や学校等の負担を軽減。

IB教育推進コンソーシアムの設立（2018年～）

国内におけるIB教育ノウハウを横展開し、IBの普及促進活動を行うことを目的として、IB校等へのきめ細やかな支援体制を構築。

【主な機能】

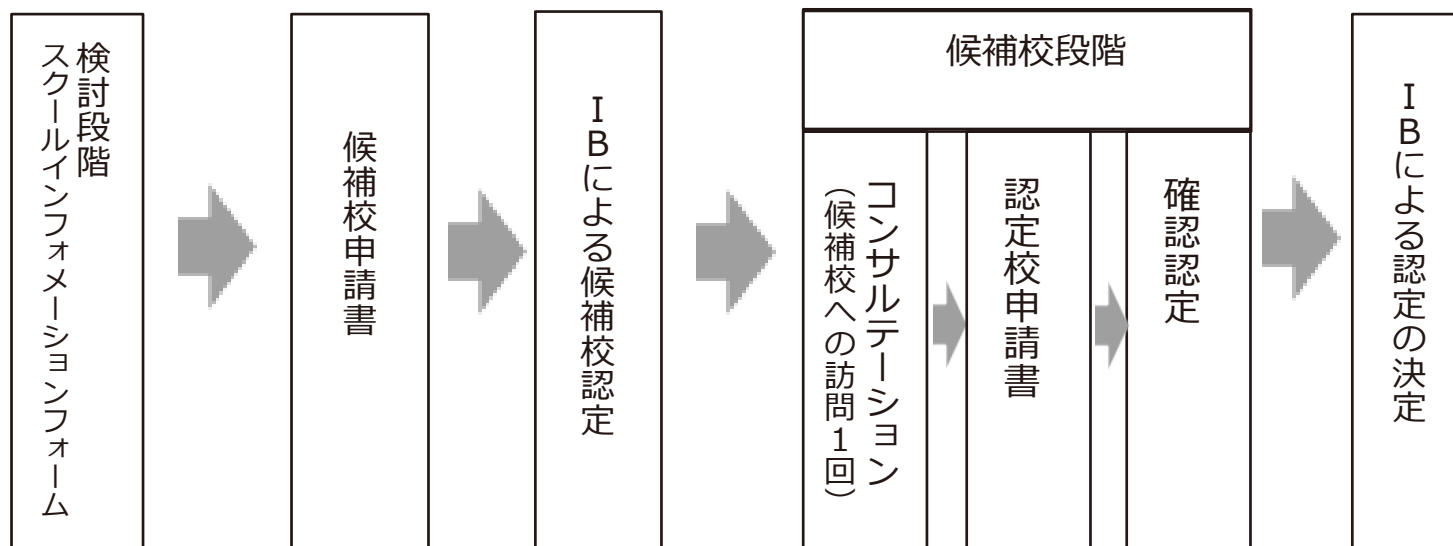
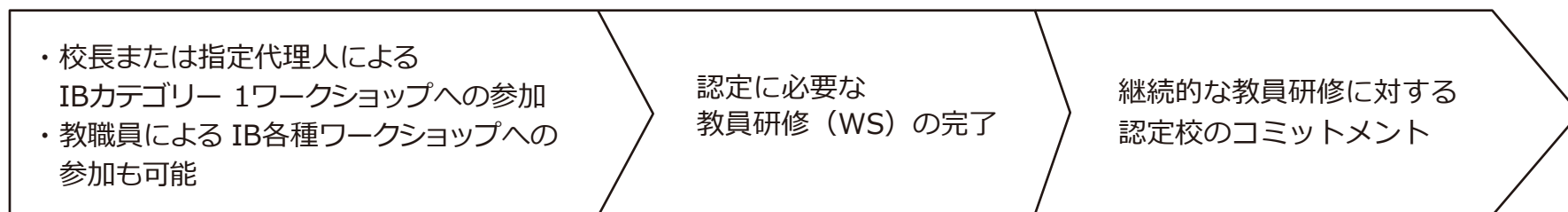
- 地域の実情を踏まえたコンサルティング等の実施
- セミナー等を通じた情報交換等の促進
- IBの教育効果等についての調査研究の実施



IB地域セミナー

④ IBの認定プロセスについて

学校や教育機関が国際バカロレアを導入し、公式なIB認定校としてIB教育を提供するためには、国際バカロレア機構（IBO）の定めた認定プロセスを完了する必要がある。IB認定までには、学校や導入するIBプログラムによって異なるが、通常は2～3年の時間を要する。



⑤ IBプログラム導入に係る費用概算

※IB機構のウェブサイトを参考に文部科学省にて目安として概算

段階	発生する経費	概算額
IB候補校になるまで	学校長向けワークショップ参加費	約10万円
	IB候補校になるための申請費	約60万円
IB候補校	IB候補校の年会費	約140万円
	IB教員のワークショップ参加費	約130万円～約240万円 ※参加する教員数により異なるため平均教員数にて算出
	IB機構のコンサルタント訪問費・ 確認訪問に係る費用等	IB認定に向け、コンサルタントや確認訪問団の 学校訪問に関わる経費が発生する
IB認定校	IB認定校の年会費	約100万円～約140万円 ※プログラムにより異なる
	IB教員のワークショップ参加費	IBのカリキュラム改定や人事異動のタイミングで ワークショップ参加のための経費が発生する
	IB機構の評価訪問に係る費用 (4-5年に1回)	認定後、初回は4年目、その後は5年に1度のスパンで 経費が発生する

⑥ 日本語DPの導入と高等学校学習指導要領の読替

日本語DP

ディプロマ・プログラム（DP）の授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があり、英語で指導可能な教員（主に外国人）の確保が課題となっている。

DPの一部科目を日本語でも実施可能とすることで、学校や教員の負担を軽減する。

高等学校学習指導要領との読替

DP科目と学習指導要領の教科・科目等の対応関係について、政府が一定の基準を示すことで、全国の高校や大学、自治体等に対して、IBと学習指導要領の対応を明らかにするとともに、DP科目と学習指導要領の教科・科目等の両方を履修するIB生等の負担を軽減する。

読替による負担の軽減

① IBコースを履修する高校生の授業時間の軽減

DP科目と対応関係が認められる学習指導要領の必履修教科・科目等を履修したとみなすことで、重複のある科目を二重に履修する必要がなくなり、卒業に必要な授業時間を軽減することができる。

② IB校の教員が個別にDP科目との対応関係を精査する負担の軽減

DP科目を学習指導要領の教科・科目等とみなすための、各学校における対応関係の精査及びその申請を行う必要がなくなり、それらの作業の負担を軽減することができる。

③ 大学がIB生の履修状況や学力についての判断を行う負担の軽減

政府が対応関係について一定の基準を示すことで、IBを入試に活用する各大学が、IB生の履修したDP科目が学習指導要領の教科・科目等の履修に相当するかどうかを判断する際の負担を軽減することができる。

⑦ディプロマ・プログラム（DP）について

DPにおけるカリキュラムの特徴

DPは16歳から19歳までを対象としており、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が得られる。DPのカリキュラムは3つのコアに6つのグループで構成されている。各グループから1科目ずつを選択し、計6科目を2年間で履修することが必須である。

* 赤字は日本語DP対象科目

コア	概要
課題論文 Extended Essay (EE)	学習している科目に関連した研究課題を設定して自ら調査・研究を行い、論文（約8000字）としてまとめる
知の理論 Theory of Knowledge (TOK)	学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味し、理性的な考え方や客観的精神を養う。さらに、言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力を育成する。
創造性・活動・奉仕 Creativity, Activity, Service (CAS)	教室以外の広い社会で経験を積み、様々な人と共同作業することにより、協調性、思いやり、実践の大切さを学ぶ。
グループ名	科目別
1. 言語と文学（※国語に相当）	言語A：文学、言語A：言語と文学、文学と演劇（標準レベルのみ）
2. 言語と習得（※外国語に相当）	言語B、初級言語（標準レベルのみ）
3. 個人と社会	経済、地理、歴史、ビジネスと経営、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、心理学、社会・文化人類学、世界の宗教（標準レベルのみ）、グローバル政治
4. 理科	生物、化学、物理、コンピューター科学、デザインテクノロジー、スポーツ・エクササイズ・健康科学、環境システムと社会
5. 数学	数学：解析とアプローチ、数学：応用と解釈
6. 芸術	音楽、美術、ダンス、フィルム、演劇

⑧-1 新学習指導要領との対応関係

■ 必修科目の対応関係

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム	高等学校学習指導要領 (平成30年改訂)
ランゲージA : ランゲージ・アンド・リタラチャー	現代の国語、言語文化
ランゲージA : リタラチャー	言語文化
ジオグラフィー	地理総合
ヒストリー	歴史総合
マセマティックス : アナリシス・アンド・アプローチズ	数学 I
マセマティックス : アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション	数学 I
フィジックス	物理基礎
ケミストリー	化学基礎
バイオロジー	生物基礎
ミュージック	音楽 I
ヴィジュアル・アーツ	美術 I
ランゲージB	英語コミュニケーション I
セオリー・オブ・ナレッジ	総合的な探究の時間

⑧-2 新学習指導要領との対応関係

■ 必修科目以外の対応関係

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム	高等学校学習指導要領 (平成30年改訂)
ランゲージA：ランゲージ・アンド・リタラチャーSL	論理国語、文学国語、国語表現
ランゲージA：ランゲージ・アンド・リタラチャーHL	論理国語、文学国語、国語表現、古典探究
ランゲージA：リタラチャー	論理国語、文学国語、国語表現、古典探究
ジオグラフィー	地理探究
ヒストリー	日本史探究、世界史探究
エコノミクス	政治・経済
マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズSL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B
マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C
マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーションSL	数学Ⅱ、数学A、数学B
マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーションHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C
フィジックス	物理
ケミストリー	化学
バイオロジー	生物
ミュージック	音楽Ⅱ、音楽Ⅲ
ヴィジュアル・アーツ	美術Ⅱ、美術Ⅲ
ランゲージB	英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ

⑨ 文部科学省IB教育推進コンソーシアム

日本国内における**国際バカロレア（IB）の普及促進**及び**IB教育ノウハウの横展開等を主導**することを目的として、平成30年にIBに係る国内関係者が集う文部科学省IB教育推進コンソーシアムを設立。

【主なコンソーシアム機能】

1. **関係者協議会**を通じた文部科学省への提言
2. 学校・教育委員会等への**日本の実情を踏まえたコンサルティング**等の実施
3. **ホームページ・情報共有プラットフォーム**の管理運営を通じたIB教育の情報交換等の促進
4. IB教育推進**シンポジウム**の開催（各地域でのセミナーも実施）
5. **コンソーシアム協力校・機関による連絡協議会**の運営

コンソーシアムによる普及活動の様子

【コンソーシアム関係者協議会の開催】



【関係者協議会における主な検討事項】

- IB普及・促進をめぐる諸課題の把握
および論点整理
- 諸課題に関する検討分科会の設置
- 分科会による諸課題の整理ならびに
課題解決アプローチの提案

【IB教育導入サポーター・ACファシリテーターによるIB啓発活動】



【IBに関するシンポジウムの実施】 テーマ「国際バカロレアで、学校・地域・社会が変わる。」 (2021年8月28・29日)



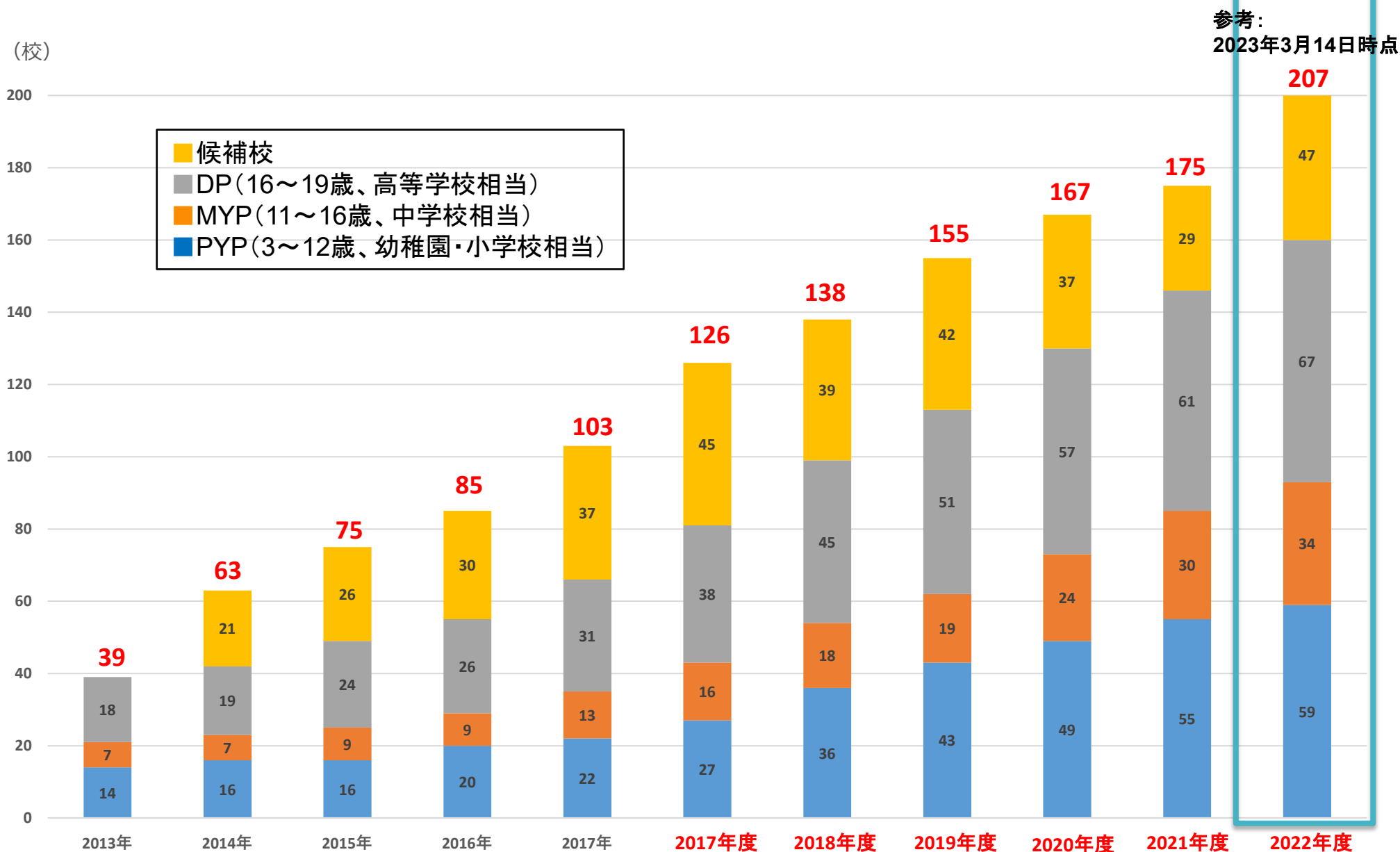
【IB啓発のための地域セミナー・講演会等の実施】



⑩ IB認定校等数推移



文部科学省



※2017年度からは3月末に集計

⑪ IB認定校一覧 (令和5年3月14日時点)



北海道

- ※◎札幌日本大学高等学校
- ※◎市立札幌開成中等教育学校
- 認定こども園あいの里

宮城県

- ※秀光中学校
- ※◎仙台育英学園高等学校
- 東北インターナショナルスクール
- ホライゾンジャパンインターナショナルスクール仙台泉校
- ※ホライゾン学園仙台小学校
- ※◎宮城県仙台二華高等学校

茨城県

- ※開智望小学校・中等教育学校
- つくばインターナショナルスクール
- ※◎茗溪学園高等学校

群馬県

- ※ぐんま国際アカデミー中等部・高等部

埼玉県

- ※◎浦和学院高等学校
- カルガモイングリッシュスクール
- ※◎さいたま市立大宮国際中等教育学校
- ※◎昌平中学校・高等学校
- ※◎筑波大学附属坂戸高等学校

東京都

- アオバジャパン・インターナショナルスクール
- アオバジャパン・バイリンガルプリスクール芝浦
- アオバジャパン・バイリンガルプリスクール中野
- アオバジャパン・バイリンガルプリスクール晴海
- アオバジャパン・バイリンガルプリスクール三鷹
- アオバジャパン・バイリンガルプリスクール早稲田
- インディア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン
- ウィローブルックインターナショナルスクール
- ※◎開智日本橋中学・高等学校
- カナディアン・インターナショナルスクール
- グローバルインディアンインターナショナルスクール東京
- ケイ・インターナショナルスクール東京
- サイシシャインターナショナルスクール
- サマーヒルインターナショナルスクール
- シナガワインターナショナルスクール
- 清泉インターナショナルスクール
- セント・メリーズ・インターナショナルスクール
- ※玉川学園中学部・高等部

東京都

- 東京インターナショナルスクール
- 東京ウエストインターナショナルスクール
- ※東京学芸大学附属大泉小学校
- ※◎東京学芸大学附属国際中等教育学校
- ※東京都立国際高等学校
- ※町田こぼと幼稚園
- みずほスクール
- ※◎武蔵野大学附属千代田高等学院
- 代々木インターナショナルスクール

神奈川県

- ※◎神奈川県立横浜国際高等学校
- キッズ大陸よこはま中川園
- サンモール・インターナショナルスクール
- ※聖ヨゼフ学園小学校
- ※◎法政大学国際高等学校
- ホライゾンジャパン・インターナショナルスクール
- ※◎三浦学苑高等学校
- ※やまた幼稚園
- 横浜インターナショナルスクール

山梨県

- ※◎山梨学院幼・小・高等学校
- ※◎山梨県立甲府西高等学校

長野県

- ※インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢
- インターナショナルスクールオブ長野
- ※◎松本国際高等学校
- ※若草幼稚園

岐阜県

- ※サニーサイドインターナショナルスクール
- ※帝京大学可児高等学校

静岡県

- ※エンゼル幼稚園
- ※加藤学園暁秀中学校・高等学校
- ※◎静岡サレジオ幼・小・中・高等学校

愛知県

- アッピート・インターナショナルスクール
- 江西インターナショナルスクール
- ※国際高等学校
- 名古屋インターナショナルスクール
- ※名古屋国際高等学校

滋賀県

- ※◎滋賀県立虎姫高等学校

京都府

- 京都インターナショナルスクール
- 同志社インターナショナルスクール国際部
- ※同志社国際学院初等部
- ※立命館宇治高等学校

大阪府

- アブロード・インターナショナルスクール大阪
- ※大阪教育大学附属池田中学校
- ※大阪国際高等学校
- ※◎大阪女学院高等学校
- ※◎大阪府立水都国際高等学校
- 大阪YMCAインターナショナルスクール
- 関西学院大阪インターナショナルスクール
- ※◎近畿大学附属高等学校
- ◎コリア国際学園

奈良県

- ※育英西中学校

兵庫県

- ※◎AIE国際高等学校
- カナディアン・アカデミー
- ◎関西国際学園
- 神戸ドイツ学院
- マリスト国際学校

岡山県

- ※◎朝日塾中等教育学校
- アブロード・インターナショナルスクール岡山
- ※◎岡山理科大学附属高等学校

広島県

- ※AICJ高等学校
- ※◎英数学館小学校・高等学校
- つきのひかり国際保育園
- 広島インターナショナルスクール
- ※◎広島県立広島叡智学園中学校・高等学校

鳥取県

- ※◎鳥取県立倉吉東高等学校

高知県

- ※香美市立大宮小学校
- ※香美市立香北中学校
- ※◎高知県立高知国際中学校・高等学校

福岡県

- 福岡インターナショナルスクール
- ※◎福岡第一高等学校
- ※リンデンホールスクール中高学部

熊本県

- 熊本インターナショナルスクール

沖縄県

- オキナワインターナショナルスクール(沖縄国際学院高等専修学校)
- ※◎沖縄尚学高等学校

(参考) 国際バカロレア認定校等数：207校

プログラム別内訳

PYP (幼稚園、小学校相当)

認定校 59校 候補校 31校

MYP (中学校相当)

認定校 34校 候補校 11校

DP (高等学校相当)

認定校 67校 候補校 5校

(凡例)

■ 公立IB校の所在都道府県

■ 国私立IB校の所在都道府県

◎ (二重丸) : デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム (DLDP) 実施校 34校

※ 学校教育法第1条に定める学校 (いわゆる1条校) 78校 (プログラム数)

青字 : 国公立IB校

⑫ I Bを活用した国内大学入試（2022年度調査）

全学部実施（40大学）

【国立】
筑波大学
お茶の水女子大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京学芸大学
金沢大学
名古屋大学
京都工芸繊維大学
香川大学
九州工業大学
鹿児島大学
琉球大学

【公立】
国際教養大学
会津大学
横浜市立大学
兵庫県立大学
叡啓大学

【私立】
東北福祉大学
日本工業大学

武蔵野学院大学
工学院大学
国際基督教大学
芝浦工業大学
玉川大学
多摩美術大学
東京都市大学
東洋大学
日本獣医生命科学大学
日本体育大学
ビジネス・ブレークスルー大学
武蔵野美術大学
松本歯科大学
中京大学
京都外国語大学
同志社大学
関西学院大学
神戸女学院大学
倉敷芸術科学大学
西南学院大学
立命館アジア太平洋大学

一部学部実施（37大学）

【国立】
北海道大学
東北大学
秋田大学
群馬大学
東京藝術大学
東京大学
京都大学
大阪大学
岡山大学
広島大学
九州大学
長崎大学

【公立】
東京都立大学
都留文科大学
大阪公立大学

【私立】
国際医療福祉大学
東京国際大学
明海大学
青山学院大学

慶應義塾大学
順天堂大学
上智大学
創価大学
中央大学
東京理科大学
法政大学
武蔵野大学
明治学院大学
明治大学
立教大学
早稲田大学
愛知医科大学
立命館大学
関西医科大学
関西大学
近畿大学
広島修道大学

計77大学

【注】・日本の学校の卒業生を対象としているものを記載（帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）

・下線はIB資格取得者・取得予定者のみを対象とした入試を実施している大学である。

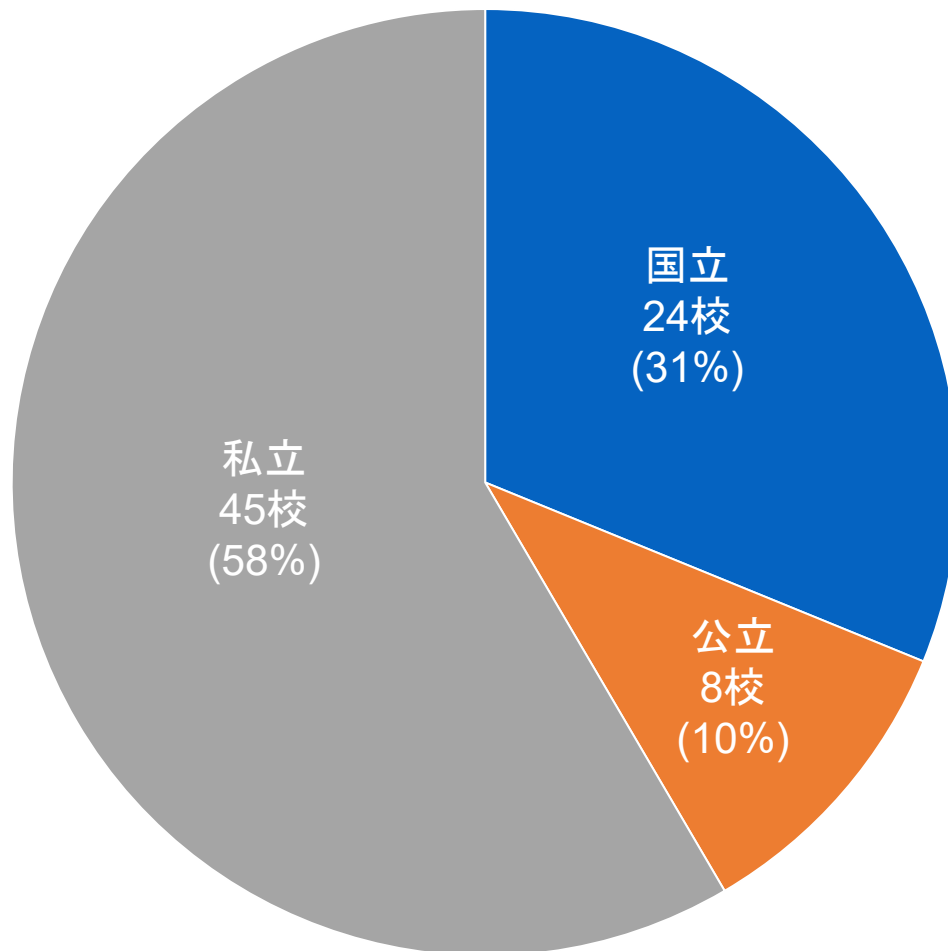
・各大学へのアンケートに基づき文部科学省 I B 教育推進コンソーシアム事務局にて作成したもので、必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。（調査：2022年12月時点）

⑬-1 IBを活用した大学入学者選抜に関する基礎調査(2022年度)

IBを活用した入試を実施している大学

【調査対象】

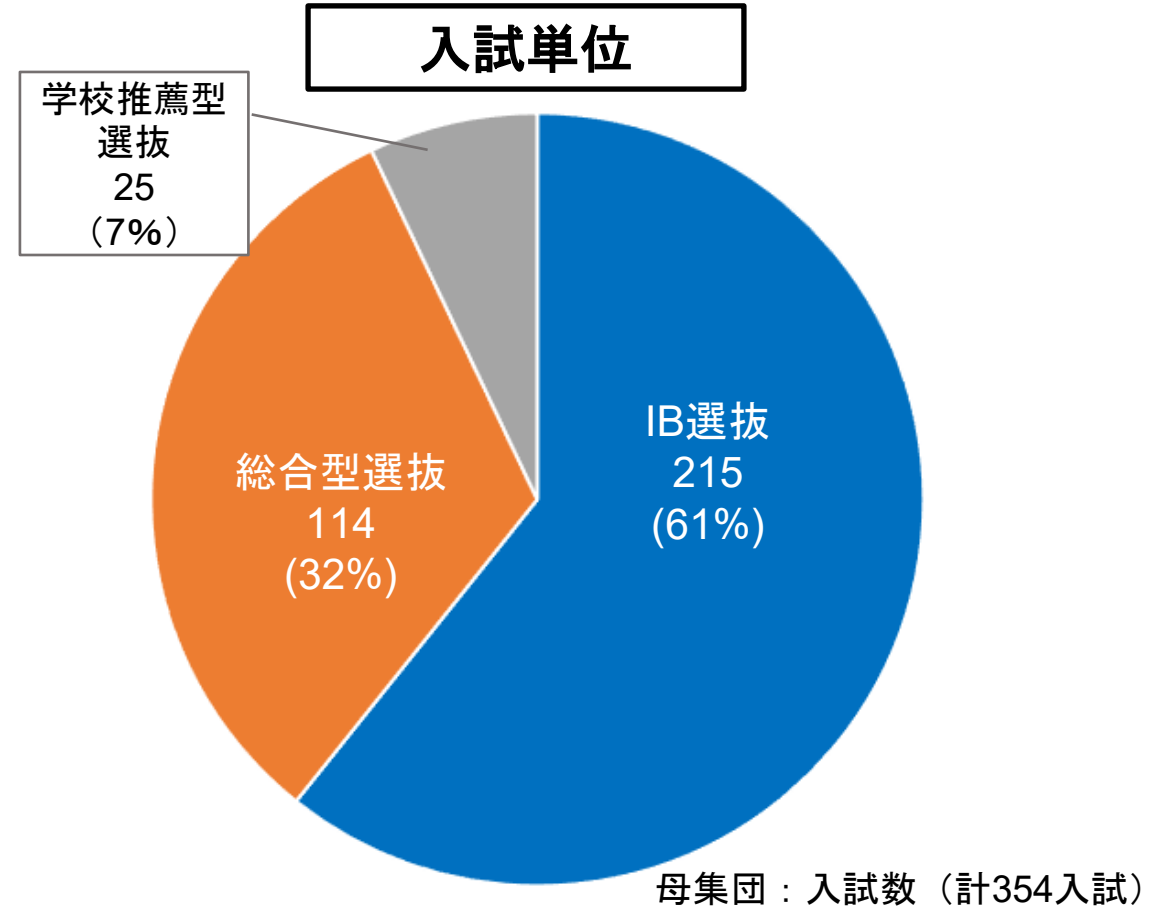
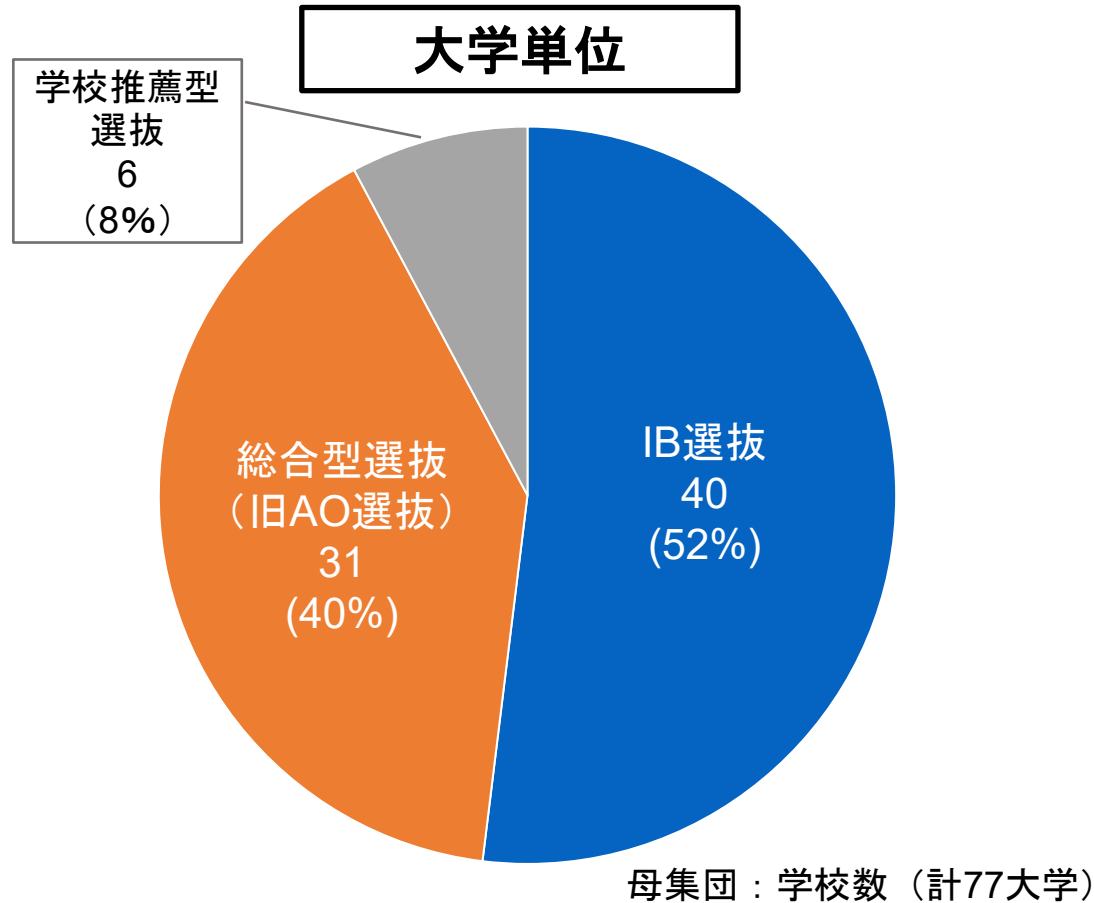
IBを活用した入学者選抜を実施している日本国内の大学 77校



母集団：学校数（計77大学）

調査時点においてIBを活用した入試を実施していると回答のあった大学は77校。内訳は国立24校、公立8校、私立45校となっている。

IBを活用した入試種別



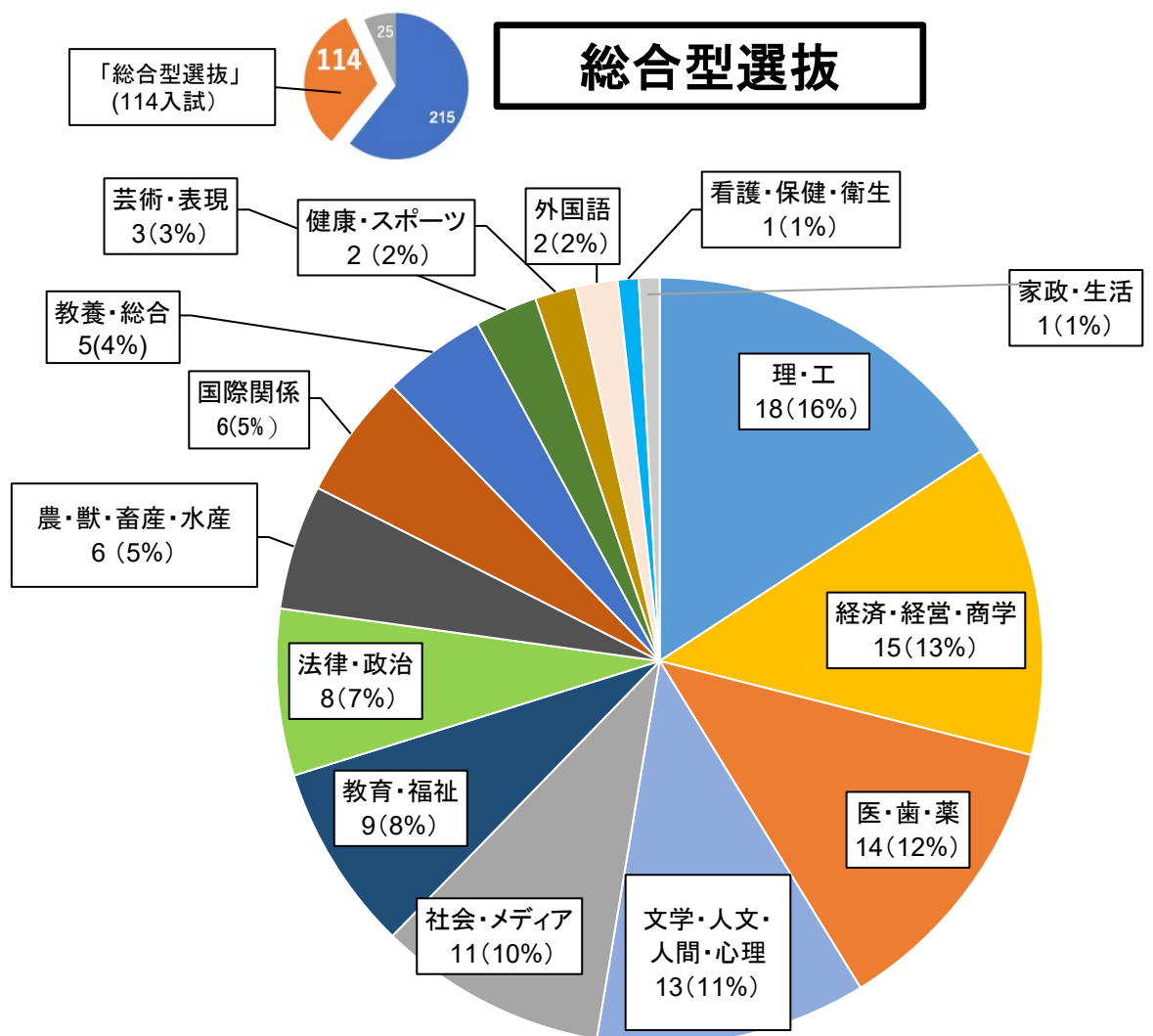
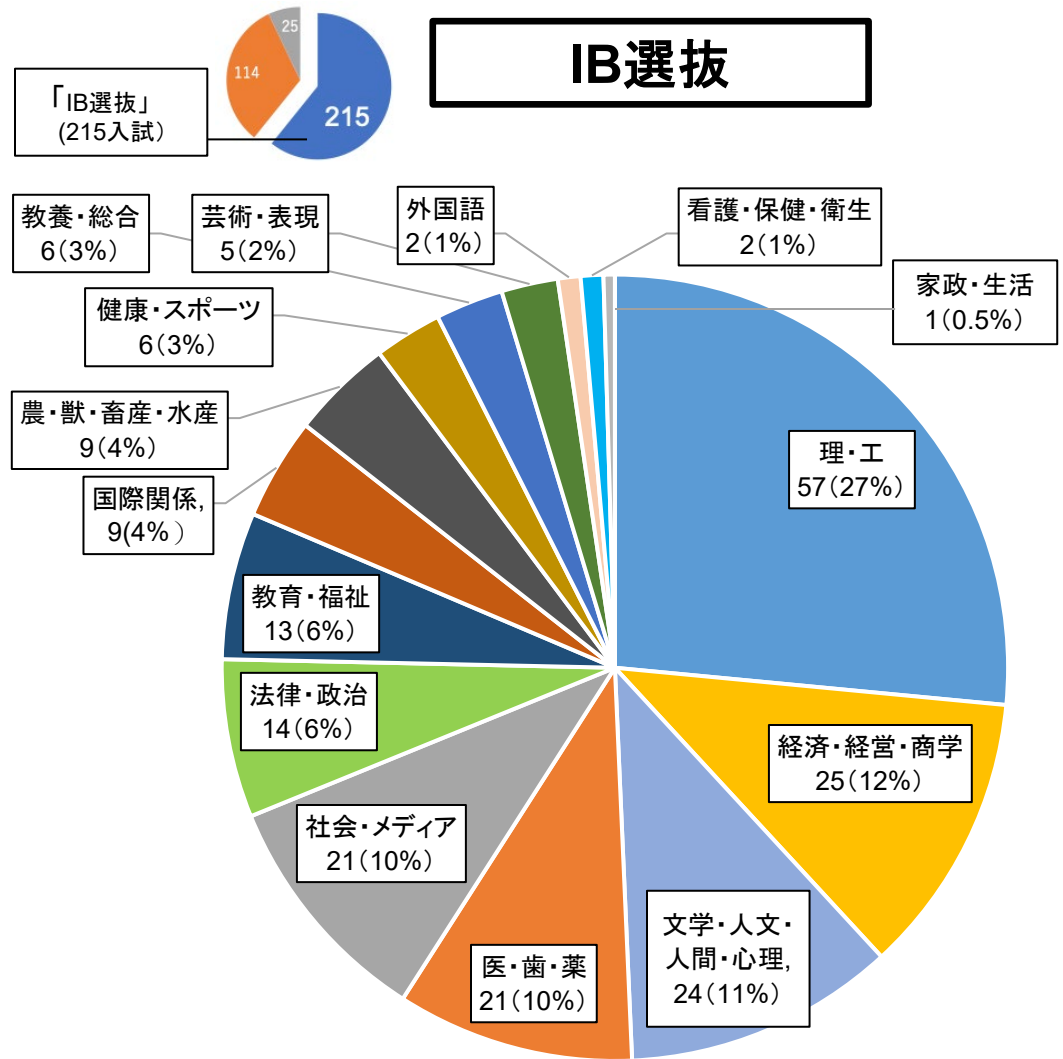
※IB選抜・総合型選抜両方実施している大学はIB選抜に計上している。

大学単位、入試単位で見ても「IB選抜」形式が最も多く、「総合型選抜（IBAO入試）」「学校推薦型入試」の順となっている。

⑬-3 IBを活用した大学入学者選抜に関する基礎調査(2022年度)

入試単位

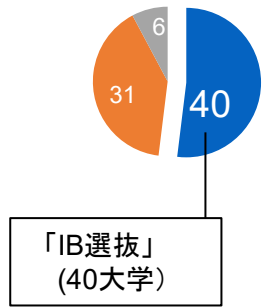
IBを活用した入試を実施している学部種別



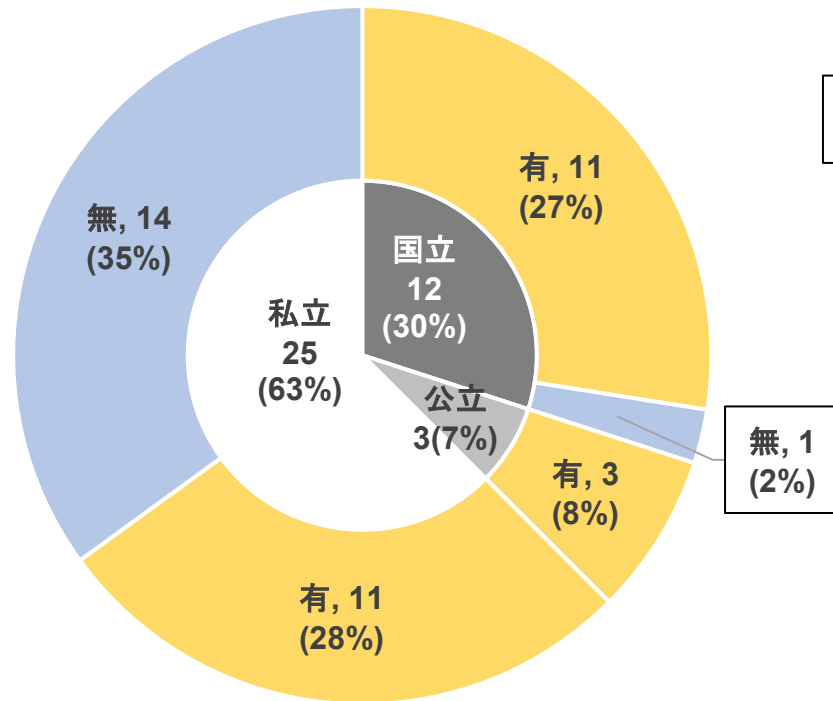
IB選抜、総合型選抜のどちらの区分でも、理・工系の学部において最も多く実施されている。

⑬-4 IBを活用した大学入学者選抜に関する基礎調査(2022年度)

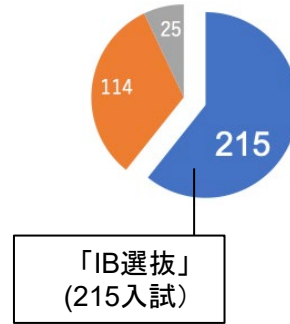
IBスコア基準の公表



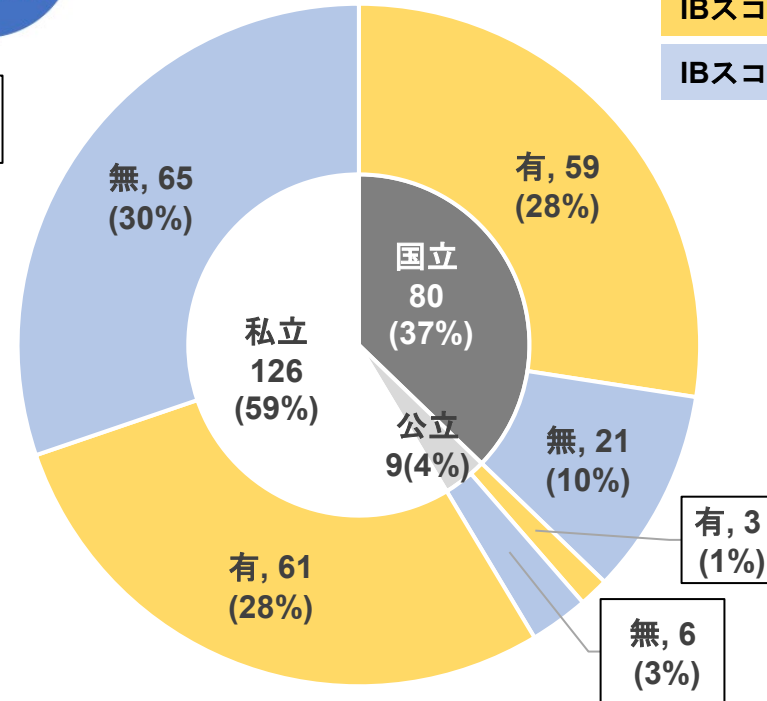
大学単位



母集団：学校数（計40大学）



入試単位



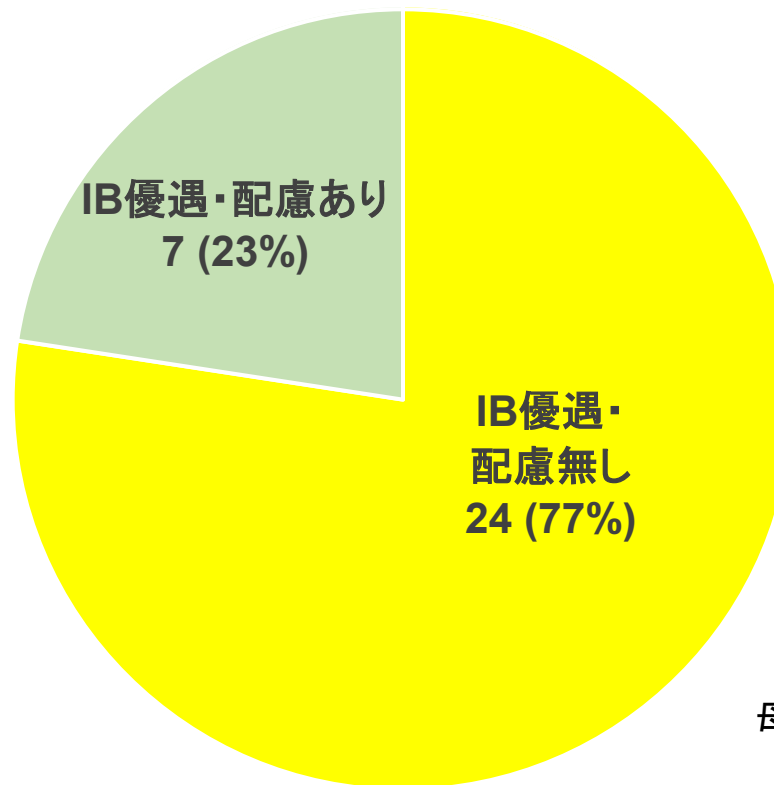
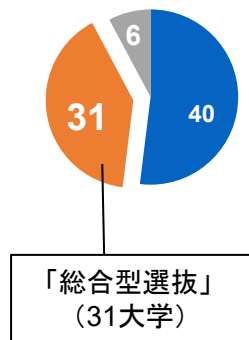
母集団：入試数（計215入試）

IBスコア基準の公表：有
IBスコア基準の公表：無

「IB選抜」入試において、国立大学の出願にIBスコア基準が公表されているものが特に多い。

大学単位

「総合型選抜」におけるIB資格の位置付け



母集団：学校数（計31大学）

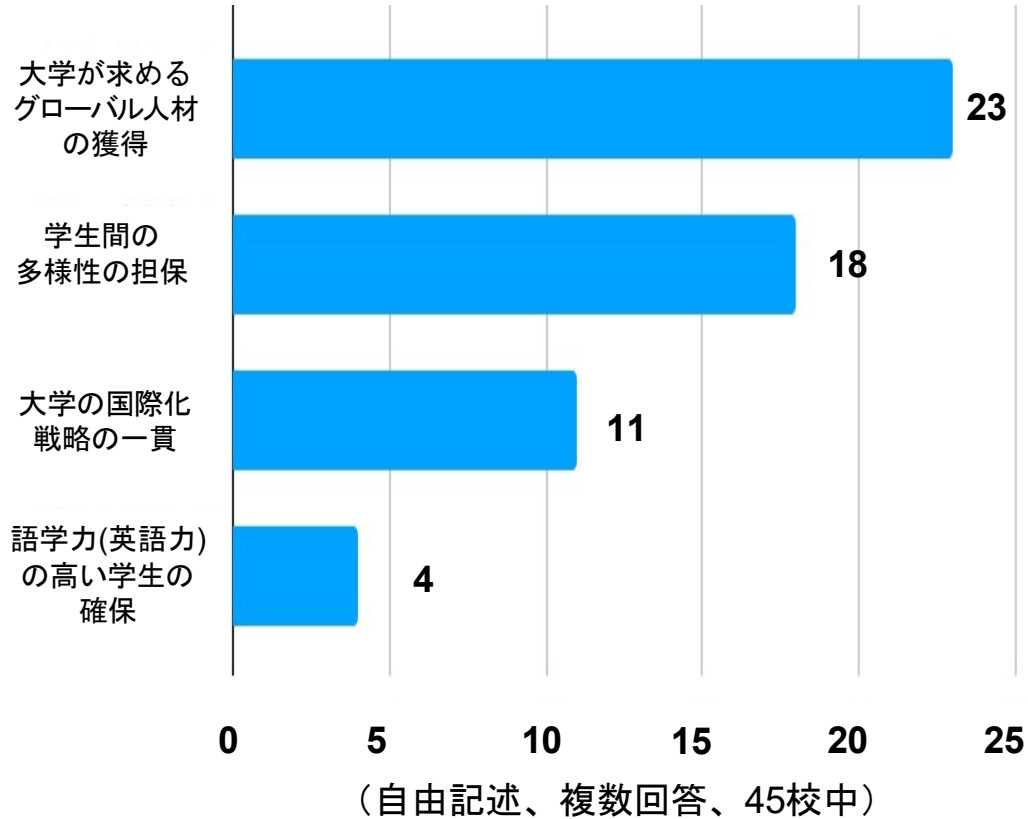
※IB優遇・配慮内容の例

- ・ 個別学力試験等の免除
- ・ 国際バカロレアの履修者は課題論文(EE)の写しを事前の課題論文として提出できること等

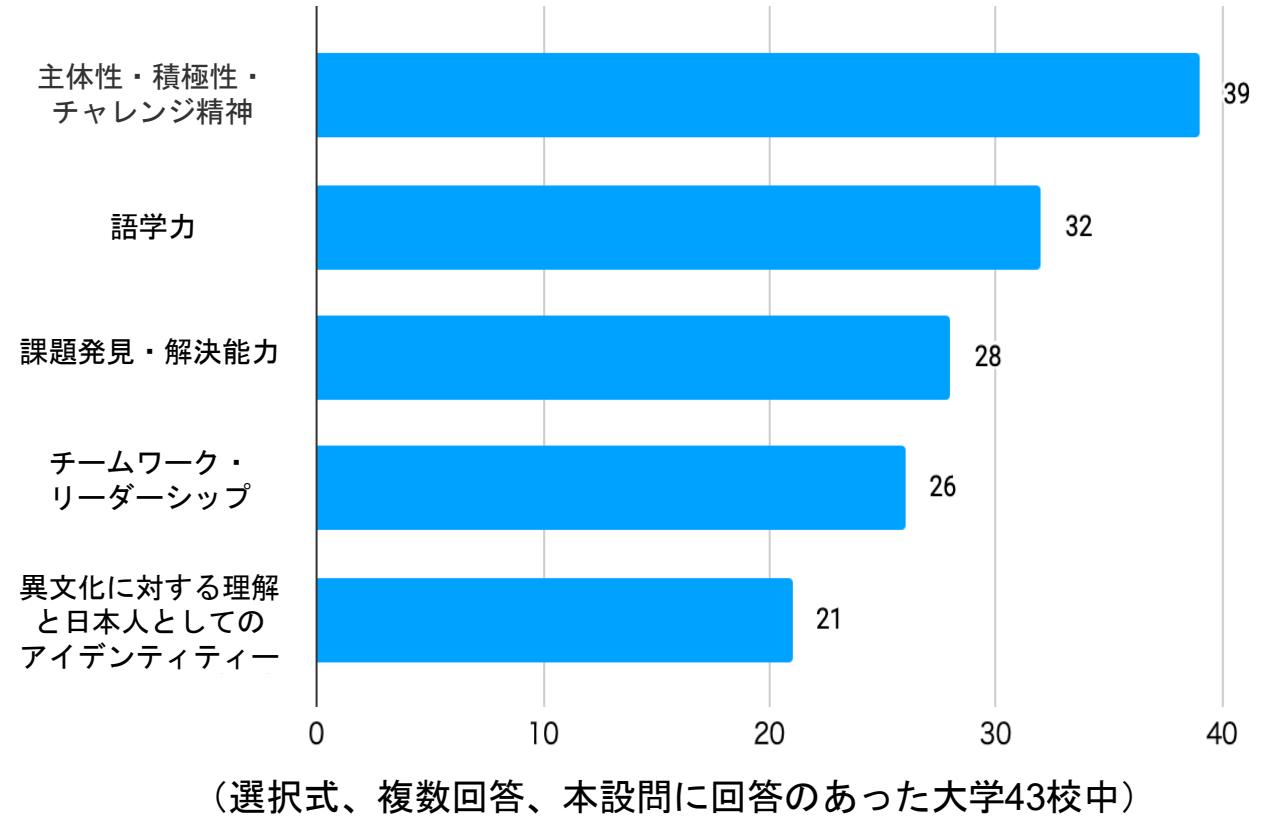
総合型選抜においてIB優遇・配慮のある大学は2割程度となっている。

⑭-1 IBを活用した大学入学者選抜に関するアンケート調査(2021年度)

IBを活用した入試を導入した目的

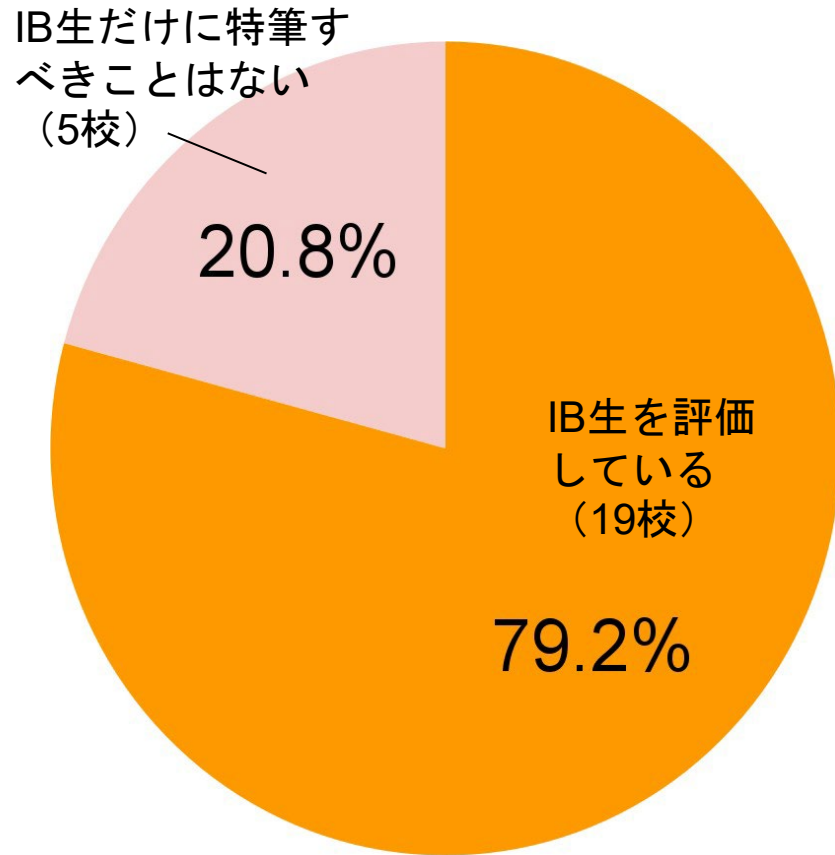


IBを入試に活用する大学が期待するIB生の資質・能力



【調査対象】 IBを活用した入学者選抜を実施している日本国内の大学68校
【有効回答数】 45校

入学後のIB生に対する大学側の評価

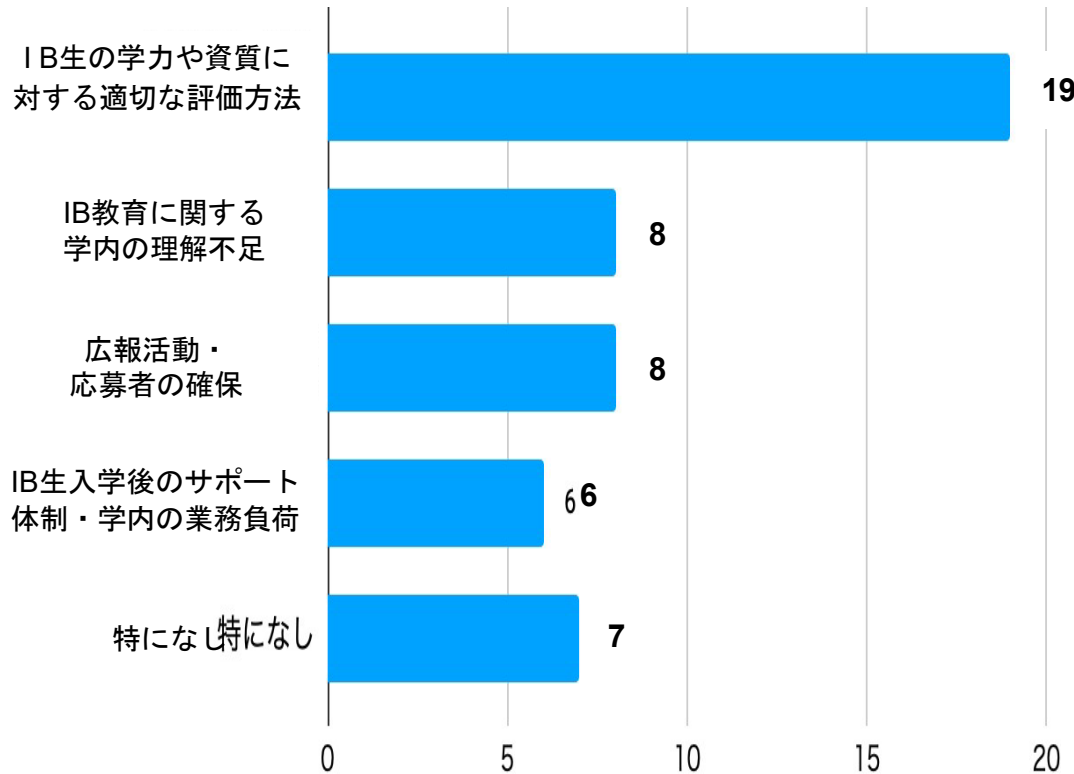


(本設問に回答のあった24大学中)

コメント抜粋

- ・ IB生のGPA平均が高く、熱心に学業に取り組んでいる様子が伺える。
- ・ 他の学生にもとても良い影響を及ぼしていると感じている。特に、グループワークやディスカッションを伴う授業の中心として活躍している学生が多く、IB生として培われた能力を発揮していると思われる。
- ・ 語学力に加え、主体性、積極性、リーダーシップがあり、非常に優秀である。
- ・ 優秀な成績を収めている。又、インターンシップや交流活動に積極的に参加し、様々なことにチャレンジしたい様子が見受けられる。その積極性とチャレンジ精神が周囲の学生にも刺激を与えることを期待している。

IBを活用した入試導入時の課題



(自由記述、複数回答、45校中)

IBを活用した入試導入時の課題へのアプローチ

IB生の学力や資質に対する適切な評価・評価方法

- ・既にIB入試を導入し入学者受入れ実績のある国立大、医学部志望者を持つインターナショナルスクールへの視察を繰り返し、双方の視点からの情報を積極的に収集することで、現在の出願要件、選抜方法を確立した。
- ・複数のIB校のIBコーディネーターや進路指導の先生方と面談を行い、さまざまな意見を頂くことで、入試の実施方法を決定することができた。
- ・外国語担当の教員を中心に議論し、設定している。
- ・科目や成績、評価基準の決定が課題となったが、それらを学類ごとに設定することで解決した。

IB教育に関する学内の理解不足

- ・教員向け研修会を開催したり、入試に関する委員会等で情報提供を行っている
- ・IB関係の説明会への参加、インターナショナルスクール関係者へのヒアリング等を行った。

広報活動・応募者の確保

- ・日本国内のIB認定校が多くないため受験者が見込めないことが懸念されたが、今後さらに認定校が増加することを期待している。
- ・IB認定校に対してチラシを郵送したほか、東京及び近郊のIB認定校へ出張して本入試の説明を行った。

IB生入学後のサポート体制・学内の業務負荷

- ・入学後の対応としては、当該入試による入学者に対して入学後1年間メンターを配置し、学生からの様々な相談にのり、必要に応じて入試課やクラス担任、ラーニングサポート部門等を交えて対応することとしました。

IBを活用した入試制度を設計する際に工夫・留意した点

入試運営に関して

【日程】

- ・受験生の属性に応じて、入試の実施時期を複数回設けるなど、受験生目線で出願しやすいスケジュールで入試制度を設計した。

【対象者】

- ・他大学等で実施されているIB入試ではDP取得（あるいは取得見込み）を出願要件としているが、本学域ではフルディプロマを取得できなかった場合でも出願できることとした。また出願に関して、IB科目の指定や成績のレベル設定も導入していない。
- ・さらに、第1次募集3名、第2次募集2名の募集定員を設けた。

【対象学部】

- ・国際系学部のみではなく、全学部を対象に実施している。

【試験内容】

- ・一般入試の生徒とカリキュラムが違う中で、IB生はどのような位置づけにあるのか理解して入試の設計をする必要があった。

考查内容について

【学力考查全般】

- ・小論文と面接による試験で、多面的・総合的に評価・判定するようにしている。
- ・試験のほかに（高校在学時の）成績評価も配点に加算することにした。
- ・IBスコアの基準をあえて設定せず、かつ面接を実施することにより、スコアだけではなく、IBプログラムを通した学びのプロセスを重要視しているというメッセージを示した。

【語学力】

- ・既存の選抜方式と同様な英語資格の要件設定や評価方法（筆記試験・面接等）を取り入れる事により、判断基準の比較が可能ないようにしています。

⑮ 日本のIB履修生の成績送付先大学（2015年-2019年）



IBスコアが入学審査の対象となり出願要項に指定されている場合には、生徒は大学出願の際にInternational Baccalaureate Information System (IBIS)を通して各大学に最終成績の通知を行う。(大学に成績を送付後、実際には出願しない場合もある)

2015-2019 日本のIB校(インターナショナルスクール含)から日本を含む世界の大学への成績送付先(10通以上の大学のみ抽出)

国	大学等名	送付数	
1	イギリス	Universities and Colleges Admissions Service (UCAS)*	350
2	日本	上智大学	318
3	日本	早稲田大学	244
4	カナダ	The University of British Columbia	212
5	日本	国際基督教大学	196
6	カナダ	University of Toronto	121
7	日本	慶應義塾大学	97
8	日本	岡山大学	91
9	オーストラリア	The University of Melbourne	84
10	日本	法政大学	59
11	カナダ	McGill University	58
12	オーストラリア	The University of Sydney	54
12	オーストラリア	The University of Queensland	54
14	アメリカ	Northeastern University	48
15	オーストラリア	Monash University	46
16	日本	慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス	43
16	シンガポール	National University of Singapore	43
16	アメリカ	New York University	43
19	日本	大阪大学	41
20	オーストラリア	The Australian National University	40
21	オーストラリア	Universities Admissions Centre (UAC, NSW & ACT)*	39
22	日本	Temple University Japan Campus	38
23	香港	The Hong Kong university of Science and Technology	36
24	日本	鹿児島大学	35
25	日本	立命館大学	32
25	アメリカ	University of Washington - Seattle	32
27	日本	北海道大学	31
28	イギリス	University College London	30
28	アメリカ	University of California - Berkeley	30
30	イギリス	King's College London	29
30	香港	The University of Hong Kong	29
32	アメリカ	Boston University	28
33	オーストラリア	The University of New South Wales	27
34	日本	筑波大学	25
35	オランダ	University of Amsterdam	24
36	イギリス	Imperial College London	23
36	日本	名古屋大学	23
36	日本	東京大学	23
36	オーストラリア	Victorian Tertiary Admissions Centre*	23
36	日本	横浜市立大学	23
41	日本	広島大学	22
41	アメリカ	Knox College	22
43	日本	同志社大学	20
43	日本	明治大学	20
43	アメリカ	University of California - San Diego	20
43	カナダ	University of Waterloo	20

国	大学等名	送付数	
47	シンガポール	Nanyang Technological University	19
47	カナダ	University of Alberta	19
47	イギリス	University of St Andrews	19
50	アメリカ	Purdue University - West Lafayette	18
50	オーストラリア	Queensland University of Technology	18
50	イギリス	The University of Edinburgh	18
53	日本	立命館アジア太平洋大学	17
54	アメリカ	University of Southern California	16
55	韓国	Seoul National University	15
55	カナダ	Simon Fraser University	15
55	アメリカ	University of California - Los Angeles	15
58	香港	The Chinese University of Hong Kong	14
58	オーストラリア	The University of Adelaide	14
58	イギリス	The University of Manchester	14
58	イギリス	University of Warwick	14
62	日本	国際教養大学	13
62	アメリカ	Brown University	13
62	アメリカ	Chapman University	13
62	オランダ	Leiden University	13
62	アメリカ	University of California - Davis	13
62	イギリス	University of the Arts London	13
62	カナダ	York University	13
69	アメリカ	Cornell University	12
69	UAE	New York University Abu Dhabi	12
69	アメリカ	University of California - Santa Cruz	12
69	オランダ	University of Groningen	12
69	カナダ	University of Victoria	12
74	オーストラリア	Macquarie University	11
74	アメリカ	Middlebury College	11
74	オーストラリア	South Australian Tertiary Admissions Centre*	11
74	ドイツ	Uni-Assist*	11
74	オランダ	Maastricht University	11
74	アメリカ	University of Illinois Urbana-Champaign	11
80	韓国	Korea University	10
80	イギリス	London School of Economics and Political Science	10
80	オーストラリア	Queensland Tertiary Admissions Centre*	10
80	アメリカ	Savannah College of Art and Design	10
80	アメリカ	Stanford University	10
80	日本	東京大学 駒場キャンパス	10
80	イギリス	University of Bristol	10
80	イギリス	University of Exeter	10
80	アメリカ	University of Oregon	10
80	アメリカ	University of Pennsylvania	10
80	オーストラリア	The University of Western Australia	10
80	アメリカ	Wesleyan University	10
80	アメリカ	Yale University	10

<国別の合計>

国	大学等数	送付数
日本	22	1421
イギリス	12	540
カナダ	8	470
オーストラリア	14	441
アメリカ	23	417
香港	3	79
シンガポール	2	62
オランダ	4	60
韓国	2	25
UAE	1	12
ドイツ	1	11

*大学への出願を仲介する機関。各機関を通じて出願する場合と大学に直接出願する場合がある。

⑩ IB教員資格を取得するためのコースを開設している大学

大学	開始時期	IB教員資格				資格取得者数		
		CTL*1			ACTLR*2	2019年度	2020年度	2021年度
		PYP	MYP	DP				
玉川大学 大学院	2014.4	○	○	○	○	11	13	21
岡山理科大学	2017.4			○		—	48	25
筑波大学 大学院	2017.4	○	○	○	○	16	15	16
都留文科大学	2017.4	○	○	○		—	48	33
関西学院大学	2019.4			○		—	—	8
国際基督教大学 大学院	2019.4		○	○	○	—	6	6
東京学芸大学 教職大学院	2019.4		○	○		9	31	37
聖隷クリストファー大学	2021.9	○				—	—	—

*1 CTL(IB Certificate in Teaching and Learning) : 教員志望者・教員・IB 教員経験者向け

*2 ACTLR(IB Advanced Certificate in Teaching and Learning Research) : IB 教員経験者・IB 教育研究に取り組む研究者・CTL保持者向け